



図書館だより

HGU Library

library.hgu.jp

vol.223

October 2020

秋の楽しみ方

芸術の秋

ネコさんの「芸術の秋」の巻

行楽の秋

紅葉と温泉 図書館係長 畠田 康平

読書の秋

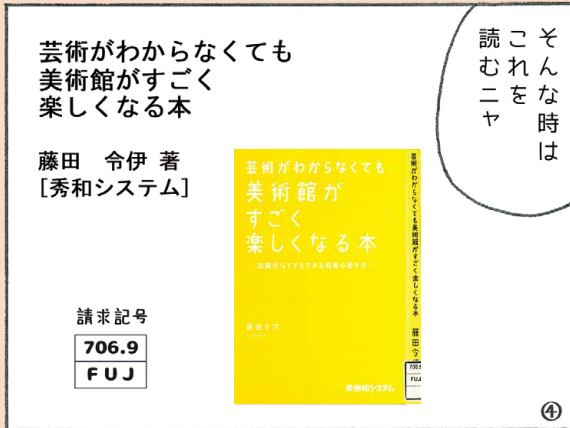
サービス・カウンタースタッフおすすめの本

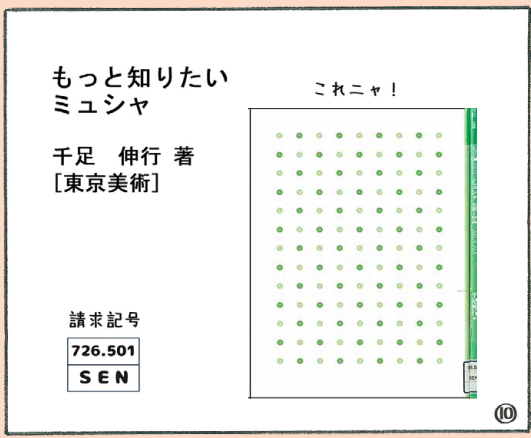
食欲の秋

本のおかわり『むかしの味』池波 正太郎 著



ネコさんの「芸術の秋」の巻





秋の行楽の定番といえば、やはり紅葉狩りに温泉だろうか。コロナ禍にあり、今年は外に出かけたくても出かけられない人もいただろう。そんなときには「いつかのおでかけ」に思いをめぐらせるのも一興かもしれない。そこで、本稿では私のおすすめする紅葉狩りと温泉の楽しみ方を、それらに関連する本とともにご紹介したい。われながら万人受けする内容とは思えないが、どなたかのおでかけの参考になれば光栄である。

さて、道内にも紅葉の名所と呼ばれるスポットは数多くあるが、山に登り、山で見る紅葉は格別のものである。たとえば、日本で一番早く紅葉を楽しめるといわれる大雪山系・黒岳は、ロープウェイとリフトを乗り継げば7合目からの登山開始となり、1時間半ほどで山頂に立つことができる。紅葉

のピークは天候次第だが、だいたい9月の2週目から3週目にかけて。この時期は雲海も発生しやすく、早朝のロープウェイに乗れば、目を見張るような光景に出会えるかもしれない。



大雪山の紅葉

の高山植物によって、平地よりも赤が目立つこ

とが特徴だ。黒岳山頂からもう少し足を延ばせば、登山道脇にたくさんあるチングルマを見ることのできるだろう。もう一つ、この季節になると動物たちの行動が活発になる。ヒグマとの遭遇には細心の

注意を払わなければならないが、運が良ければ、氷河期の生き残りといわれるナキウサギの姿を見られるかもしれない。

もう少し近場で紅葉を楽しみたいという声もあるだろう。実は私たちの暮らすこの道央エリアには登れる山がたくさんある。そもそも北海道に登山道のついた山がどのくらいあるのかというと、なんとその数2000以上。その約4分の1が道央エリアに集中しているのである。こうした情報はインターネットでの収集が難しく、『北海道夏山ガイド』（北海道新聞社）を参考にされることをおすすめしたい。本書はエリアごと全6巻からなり、30年以上に渡っ



ナキウサギ



チングルマの紅葉

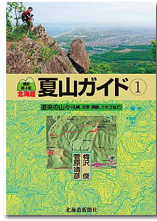
て増刷・改訂を続けているロングセラーだ。山ごとのコースタイムやグレード分けはもちろん、地域住民でも知らないようなマイナーな山まで網羅するガイドブックは他にない。秋の登山は寒暖差が激しい。本書を片手に紅葉を見に行く際は、防寒対策をはじめ、しっかりとした装備で臨みたい。



盤渓山から藻岩山と札幌市街を望む

続いて、話題を温泉に移そう。これからの寒い季節、温泉がいちだんと恋しくなる人も多いだろう。ちなみに、日本には47都道府県すべてに温泉があるが、北海道の温泉地（宿泊施設のある場所）の数は全国第1位であることをご存知だろうか。源泉総数や湧出量、宿泊施設数においてもすべてトップ5入りしており、実は日本屈指の温泉の宝庫なのである（数値は環境省「平成30年度温泉利用状況」より）。

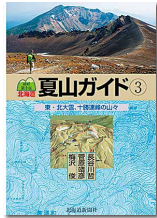
それゆえに、道内には個性豊かな温泉も多い。私の好きな道東エリアには、弟子屈町に殺菌作用の高い強酸性の泉質で知られる川湯温泉があるが、ここの温泉に釘を浸けておくと2週間溶けてなくなるといふ。一方、新得町には強力なカリ性のオソウシ温泉があり、化粧水のようにトロトロとした無色透明の温泉に浸かると、



『最新第4版 北海道夏山ガイド1
道央の山々』
梅沢 俊・菅原 靖彦 著
(北海道新聞社 2015年)



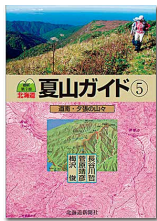
『最新版 北海道夏山ガイド2
表大雪の山々』
梅沢 俊・菅原 靖彦 著
(北海道新聞社 2013年)



『最新第3版 北海道夏山ガイド3
東・北大雪、十勝連峰の山々』
梅沢 俊・菅原 靖彦・長谷川 哲 著
(北海道新聞社 2020年)



『最新第3版 北海道夏山ガイド4
日高山脈の山々』
梅沢 俊・菅原 靖彦・長谷川 哲 著
(北海道新聞社 2020年)



『最新第3版 北海道夏山ガイド5
道南・夕張の山々』
梅沢 俊・菅原 靖彦・長谷川 哲 著
(北海道新聞社 2016年)



『最新第3版 北海道夏山ガイド6
道東・道北・増毛の山々』
梅沢 俊・菅原 靖彦・長谷川 哲 著
(北海道新聞社 2016年)



『ぶくぶく自噴泉めぐり 改訂新版』
篠遠 泉・長岡 努・永瀬 美佳 著
(山と溪谷社 2017年)

クレンジング効果で毛穴という毛穴の汚れが落ちる感があるが、入浴後の保湿を怠ると肌がカサカサになることがある。また、鹿追町には全国の温泉ファンに愛される然別峡かんの温泉があるが、人気の秘密は自噴源泉100%の純度の高いお湯にある。温泉は自然の恵みというイメージがありながら、気の遠くなるような長い年月をかけ、地表から自然に湧き出た温泉（自噴泉）に入れる機会はそうそうない。掘削技術等の進歩により、現代の温泉の多くは、そうなる前に地下深くから汲み上げられているからだ。そうした希少な自噴泉が日本全国にどのくらいあるのかというと、わずか70か所に満たない

そうだ。興味をお持ちの方には『ぶくぶく自噴泉めぐり』（山と溪谷社）という本をご紹介します。本書は写真がふんだんに使用され、大胆なレイアウトで読者を飽きさせない。なにより、温泉の紹介や時折挿入されるコラムに著者たちの並々ならぬ温泉愛が伝わってくる良著だ。対象は全国の温泉だが、北海道もかんの温泉をはじめ5か所



然別峡かんの温泉

が掲載されており、私たちにとって身近な、支笏湖の丸駒温泉も紹介されている。湖の水位とともに温泉の水位も変化する、丸駒温泉の天然露天風呂に入ったことのある人は多いと思うが、あのお湯が絶えず足元から湧出する、鮮度抜群の極上温泉であることを知っている人はどのくらいいるだろう。お湯の個性を知ること、いつもの温泉はきつと何倍も楽しくなる。私流の紅葉狩り、温泉の楽しみ方はいかがだったであろうか。結局のところ、温泉はともかくとして、紅葉狩りというより山登りの紹介だったじゃないかというお叱りを受けそうだが、悪しからずご容赦いただきたい。

サービス・カウンタースタッフおすすめの本



『骨格診断×パーソナルカラー 賢い服選び』

二神 弓子 著

(西東社 2018年)

普段何気なく選んでいる服装。自分に「似合う」とはどういう状態なのかを把握している方はどれくらいいるでしょうか。この本は男性向けに「骨格診断」と「パーソナルカラー」のメソッドに則って、似合う服とその選択の方法を紹介してくれます。ファッション誌のようにおしゃれな服を紹介しているのではなく、自分が生まれ持った特徴を的確に把握し自然な服選びを簡単に学ぶことができるので、ぼんやりとしたファッションへのイメージが明確になっていく気持ちの良い感覚はこの本ならではの、ではないでしょうか。服選びに失敗したくないと感じている方は一読をぜひおすすめします。女性版も貸出しているので興味のある方は参考にしてみてください。



『あやうく一生懸命 生きてところだった』

ハ・ワン 著
岡崎 暢子 訳

(ダイヤモンド社 2020年)

これまで韓国の受験戦争が報じられたニュースを見るたびに、「ああ、この国に生まれなくて良かった…」と心の底から思っていたものだ。そんな激戦区に身を置き、現在は自由の身(?)となった著者が自らの学生時代やサラリーマン時代を回顧し、様々な経験を哲学し、現在進行形の日常を綴ったのがこの作品である。全体的に緩めの雰囲気の内容であるが「一生懸命を否定するつもりも、適当に生きて方がいいと言うつもりもない。しかし努力は必ずしも報われるわけではない」など、著者が経験したが故の現実的なエピソードの数々に“一生懸命”生きてきた人は多かれ少なかれ共感するだろう。自分に厳しすぎる一生懸命な皆様、あなたは目指す場所までの道中を楽しめているだろうか。

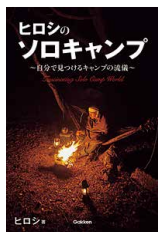


『改訂版 金持ち父さん 貧乏父さん —アメリカの金持ちが 教えてくれるお金の哲学』

ロバート・キヨサキ 著
白根 美保子 訳

(筑摩書房 2013年)

著者のロバート・キヨサキさんはアメリカの投資家・実業家です。多くの方が一度は、書店などで目にしたことがあるのではないのでしょうか。世界中で売れているお金についての本です。本の題名の通り金持ち父さんと貧乏父さんが登場し、物語形式になっているビジネス書です。金持ち父さんは、お金を金融資産や自分を磨くために使い、貧乏父さんはすべて支出として使う。このようにお金の使い方によってまたお金を生み出すのか、一生お金のために働くのか、お金についての考え方で人生も変わるということをわかりやすく説いている本です。この本のシリーズも色々出ていますので、社会に出る前にお金について学ぶ本としてぜひ一度手に取って読んでほしい一冊です。



『ヒロシのソロキャンプ ～自分で見つける キャンプの流儀～』

ヒロシ 著

(学研プラス 2020年)

本書は、芸人ヒロシではなく一キャンパー・ヒロシとしてお笑いを封印、自分のお気に入りのキャンプ用品やソロキャンプの楽しみ方を真面目に紹介している。

専門店で店員に勧められるがままに購入してはいけない。ホームセンターや金物店、100均にも安価で便利なアイテムもある。等々、庶民と同じ目線で紹介してくれている。機能性も大事だが、多少不便でも格好いいから使う、見た目重視でリュックにあれこれぶら下げる。そこに、ソロならではの愛着やこだわりが透けて見え好感を抱く。

ソロキャンプは、自由も不便も失敗も全て自分次第。誰からも文句を言われない代わりに泣き言も言わない。それを楽しむ事が醍醐味とわからせてくれる一冊。



『配色アイデア手帖
世界を彩る色と文化』

桜井 輝子 著

(SB Creative 2020年)

「世界一周するように」をコンセプトに、世界の色や文化に触れながら、実用的かつ多彩な配色が豊富にまとめられた一冊。自分では思いつかないような意外な色の組み合わせが、デザインやイラストを用いて紹介されています。

世界の国々、お菓子、民族衣装、名画、香りの色など、その時の気分に合わせて疲れた時にもばらばらとめくだけで楽しめる本です。世界のスタバやお祭りなど、様々な切り口のコラムも掲載されています。

すべての色にカラーコードが掲載されているため、プレゼン資料を作成するときにも役立ちます。コロナ禍で海外旅行ができない今、この本で世界旅行気分を味わってみてはいかがでしょうか。



『君たちは何をめざすのか
ラグビーワールドカップ2019
が教えてくれたもの』

徳増 浩司 著

(ベースボール・マガジン社 2020年)

昨年秋、アジア初のラグビー W 杯が日本で開催され、44日間の熱い戦いが繰り広げられました。この本では、あの熱戦の裏で起きた人と人とのつながりのエピソードを中心に、ラグビー W 杯のもう一つのストーリーが描かれています。難関と言われたアジア開催の招致から、準備、運営を見続けてきた著者だからこそ知りうる逸話の数々。思いがけない台風で予定が変更になる中、念願の試合が中止になり、落胆した子どものために働きかけた大人達、開催地のひとつになった釜石市の高校生からのメッセージなど、W 杯成功を願いながら人々が起こした奇跡と感動の話はいずれも胸が熱くなります。ひとつの世界大会がもたらす縁や絆を通じ、誰もが温かな気持ちになる一冊です。



『幸福のパズル』

折原 みと 著

(講談社 2017年)

倉沢みちるは、高3の夏、老舗ホテルの御曹司、蓮見優斗と恋に落ちるが、花火大会の夜、行き違いから悲しい別れを迎える。5年後、再会した二人は急速に惹かれ合う。好きな人と過ごし、好きな小説を書き、人生で初めて幸せに身を委ねたみちるだったが、それは束の間の“幸福”だった……。本書は完成までに3年かかったという小説家デビュー 30周年記念小説。著者は少女マンガ家でもある折原みとさん。自然豊かな葉山や安曇野を舞台に、登場人物の感情が優しく綺麗で繊細に描写されている。人生をジグソーパズルにたとえる場面は印象的。どんな欠片もかけがえのない必要なもの…。長編恋愛小説ではあるが、読む手が止まらない…「人生の幸せって何だろう」と模索していく一冊。



『穴 HOLES』

ルイス・サッカー 著

幸田 敦子 訳

(講談社 1999年)

まずい時にまずい所にいたために、代々不連続きの家に生まれたスタンリー。彼も例外なく、無実の罪で矯正キャンプに行く羽目に。そこで課されたのは一人一人の大きな穴を各々が毎日一つ掘ること。干上がった湖、照り付ける太陽、満身に水も与えられない中、ただひたすら穴を掘る毎日。これが更生につながるのか？ なぜ穴を掘るのか？ 突如挿入される過去の物語とスタンリーの今との関係は？ 散りばめられた多くの謎、施設で芽生えた友情、二人の少年の冒険を軸に物語は進む。終盤、登場人物たちの複雑に絡まる運命の糸が解きほぐされ、見事に伏線が回収されていく様は圧巻。読後の爽快感をぜひ味わってほしい。原書『HOLES』も細かな章立てで読みやすく、英語多読におすすめ。

